

令和7年度 自己評価書

令和8年3月25日
真庭市立勝山こども園

1. 勝山こども園の教育保育目標

○教育・保育方針

子ども達を取り巻く環境や子ども達の家庭環境を支援し、子どもの状況や発達過程を踏まえ、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。

○保育・教育目標

適切な環境の中で養護と教育が一体となった保育を行い、心身ともにたくましく心豊かな幼児の育成を目指す。

○めざす子ども像

- ・明るく健康な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・やりとげる子ども
- ・考える子ども
- ・のびのびと自分の思いを表現する子ども

2. 本年度の重点目標

- ・養護の行き届いた環境の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持、情緒の安定を図る。
- ・身近な人々や自然、文化に触れる様々な体験を通して、感動する心や人と関わる力を育てる。
- ・家庭との連携を図りながら、生活に必要な習慣や態度を育成するとともに、子育ての楽しさを共有することができる。
- ・一人一人の発達や特性に応じた保育を努め、それぞれの個性を活かし、自ら人や環境と関わって遊び、豊かな心情や主体性を育てる。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	子ども一人一人の発達や課題をしっかりと読み取り、遊びや生活環境の計画作成に努めた。計画の見直しをしながら遊びを通して育つ実践を行うことができたように思う。PDCAサイクルの実践を引き続き行っていきたい。	3
行事	意欲的に参加できる内容を子どもと一緒に考え取り組むことで、子どもも保護者も満足感を味わうことができ、成長する機会となった。また保護者と成長を共感できるよい機会となったと思う。	3
組織・運営	日々の話し合い時間の確保を大切に工夫しながら取り組んだことで保育の資質向上に繋がったと思う。職員の業務分担に関しては、円滑な運営ができるようにより連携を深めていきたいと思う。	3
学級経営	発達や課題に応じて一人一人に寄り添った対応を心がけ、保育環境を整えて健やかな育ちに繋がったと思う。互いの取り組みや思いを共有する時間を大切にしながら、今後も安心して生活し自己発揮できる場所を作っていきたい。	3
特別支援教育	多様な対応を必要としている子どもが増えており、一人一人に丁寧に関われるような環境が作れたことで、寄り添った援助ができ成長や心の安定が図れたと思う。保護者の方との話し合いを引き続き丁寧に行っていきたいと思う。	3
安全管理・保健指導	日頃の訓練などを通して安全に対する意識づけや生活に必要な行動など習得していくことができたと思う。引き続き事故防止や安全管理に配慮し、瞬時の適応能力などを育てていきたいと思う。	3
研修（資質向上）	研修会への参加や、資料を使つての園内研修を通して保育の質の向上を図ってきた。職員の意識も高まってきている。保育環境の見直しや豊かな遊びを育む環境づくりなど今後も職員で意欲的に取り組んでいき、よりよい保育の充実を目指したい。	3
情報提供・保護者・地域との連携	懇談等を利用して保護者とのよい関係づくりができたように思う。また、行事やイベントへの参加を通して地域への思いを高めていくことができているので、引き続き参加等で地域へ貢献できる活動を考えていきたい。	3
小学校との接続・連携	就学に向けての連携を行うことができ、子どもたちの不安を減らしたり、期待を高めたりすることはできた。もう少し早い段階からの連携をとることができるようになれば、よりスムーズな連携が図れると思うので、話し合いを進めていきたい。	3

子育て支援	ICTを利用して園での活動の様子を伝えることで安心や成長を感じてもらうことに繋がったと思う。行事を通して喜びを共有したり、一緒に活動することで関わりを深めていけるような機会や情報を今後も発信していきたい。	3
食育の推進（給食）	栄養士による食育指導を通して、身体の成長に必要な知識や食材への関心などに繋げることができた。掲示を通して親子の会話も聞かれたりするので、引き続き連携をとり取り組んでいきたい。	3
食事の提供（調理）	安全・安心な食の提供をすることができ、子どもたちも給食を楽しみにしたり、食べられる食材が増えたりした。アレルギー児への対応も連携をもって行えているので引き続き気をつけて取り組んでいきたい。	3

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育の資質向上	保育環境の見直しについて取り組む中で、様々な工夫を通して子どもたちの育ちに繋げることができていた。研修や文献など自己研鑽に引き続き取り組み、子どもたちの豊かな成長を育むことができる環境づくりを進めていきたい。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の重点目標である「行き届いた環境のもとでの保育の充実」に向け、発達段階や興味関心を踏まえた環境構成を行った。遊びや活動を選択しやすい教材配置や空間づくりを工夫することで、子どもが自ら考え、主体的に関わろうとする姿が多く見られた。 ・一人一人の特性や育ちの姿を丁寧に捉え、個別の関わりや援助を行うことで、安心して自分らしさを発揮しながら経験を重ねることができた。体験をとおして学ぶ活動では、試行錯誤や友だちとの対話を通じて、思考力や社会性が育まれている様子が見えがえた。 ・ICTの活用を進め、活動の様子を記録・共有することで、保育の振り返りや職員間の共通理解が深まり、保育内容の改善につなげることができた。今後も、子どもの学びや育ちを支える環境づくりと、ICTを効果的に活用した保育の充実に取り組んでいきたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方法等

- ・日々の保育記録や ICT による写真・動画の振り返りを通して、子どもの興味や育ちの変化を職員間で共有し、環境構成や援助の方法を柔軟に見直していくことが必要。体験を通して学んだことを次の遊びや活動へ継続的につなげられるよう、年間計画や月案の評価・改善を継続的に行い、学びの積み重なりが感じられる保育を進めていく。
- ・職員一人一人が共通の目標意識をもって保育に取り組めるよう、ICT を活用した記録の共有やミーティングを充実させ、子どもの姿を基にした協議の機会を確保する。また、経験年数や専門性に応じた役割分担や学び合いを進めることで、保育の質の向上及び専門性の向上を図っていく。
- ・保護者に対して、ICT を活用して日々の活動や子どもの育ちを分かりやすく伝え、園での学びや経験を家庭と共有していくことが重要である。あわせて、面談や懇談の機会を通して保護者の思いや意見を丁寧に把握し、連携を深めながら、子ども一人一人の育ちを共に支える関係づくりに努めていく。

園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である